



# 「ムーンショット目標5・産学連携フォーラム」

## ～産学連携フォーラムのご紹介と今後の取り組みについて～

**2024年1月29日**

**野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社**

〒100-8130

東京都千代田区大手町2-2-2 アーバンネット大手町ビル20階

## ○ 専門家を入れた『開発戦略ラウンドテーブル』を設置

### 目的

- ・ **起業や事業化による開発の加速スキーム**を描く
- ・ **民間等からの資金提供、事業開発を進める体制**の構築
- ・ **国際ベンチマークの明確化**

### 開発戦略と対話

Business

社会への波及  
知的価値の拡張

Science

科学的根拠  
新概念・新機軸

\* 社会実装に向けた  
研究と事業の融合

### 開発戦略ラウンドテーブル (RT)

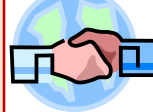


千葉PD

#### RT委員

江戸川 泰路 : 江戸川公認会計士事務所  
代表パートナー  
奥谷 雅子 : 佐藤総合法律事務所  
弁理士

#### 対話



### プログラマネージャー (PM)

#### <各プロジェクトとの対話の例>

- ・ **社会実装** (起業、事業会社へのスピンオフ等) の策定
- ・ 幅広い投資家を呼び込むための**明確なビジョン**の策定
- ・ ビジョンを実行するための**事業戦略・知財戦略**の策定
- ・ 社会実装手段を踏まえた**開発計画**の策定

シンクタンク機能

<国際ベンチマーク比較>

類似研究、知財分析、競合ベンチャー調査

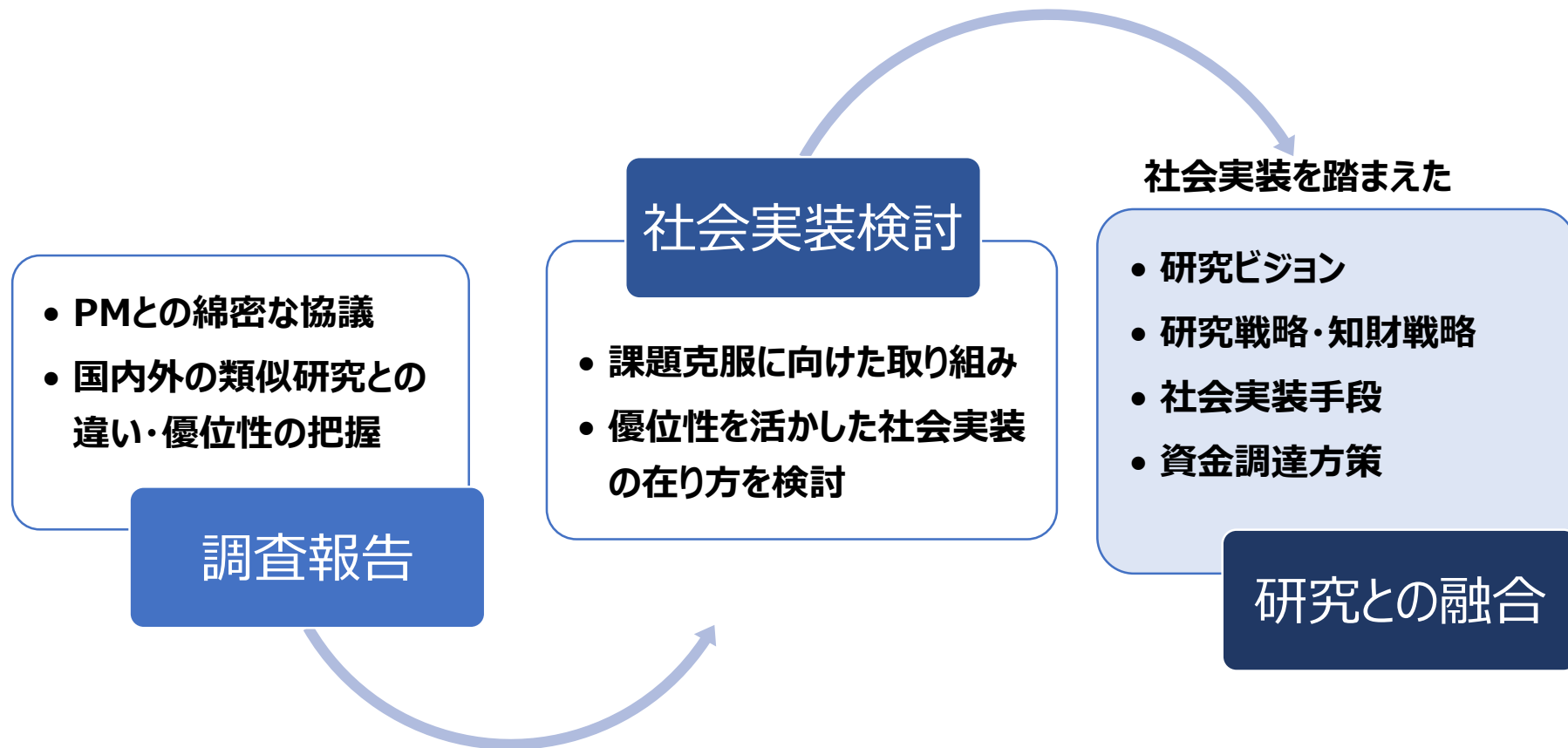
社会との接点

<社会実装に向けて>

ビジネスプラン作成、外部発信

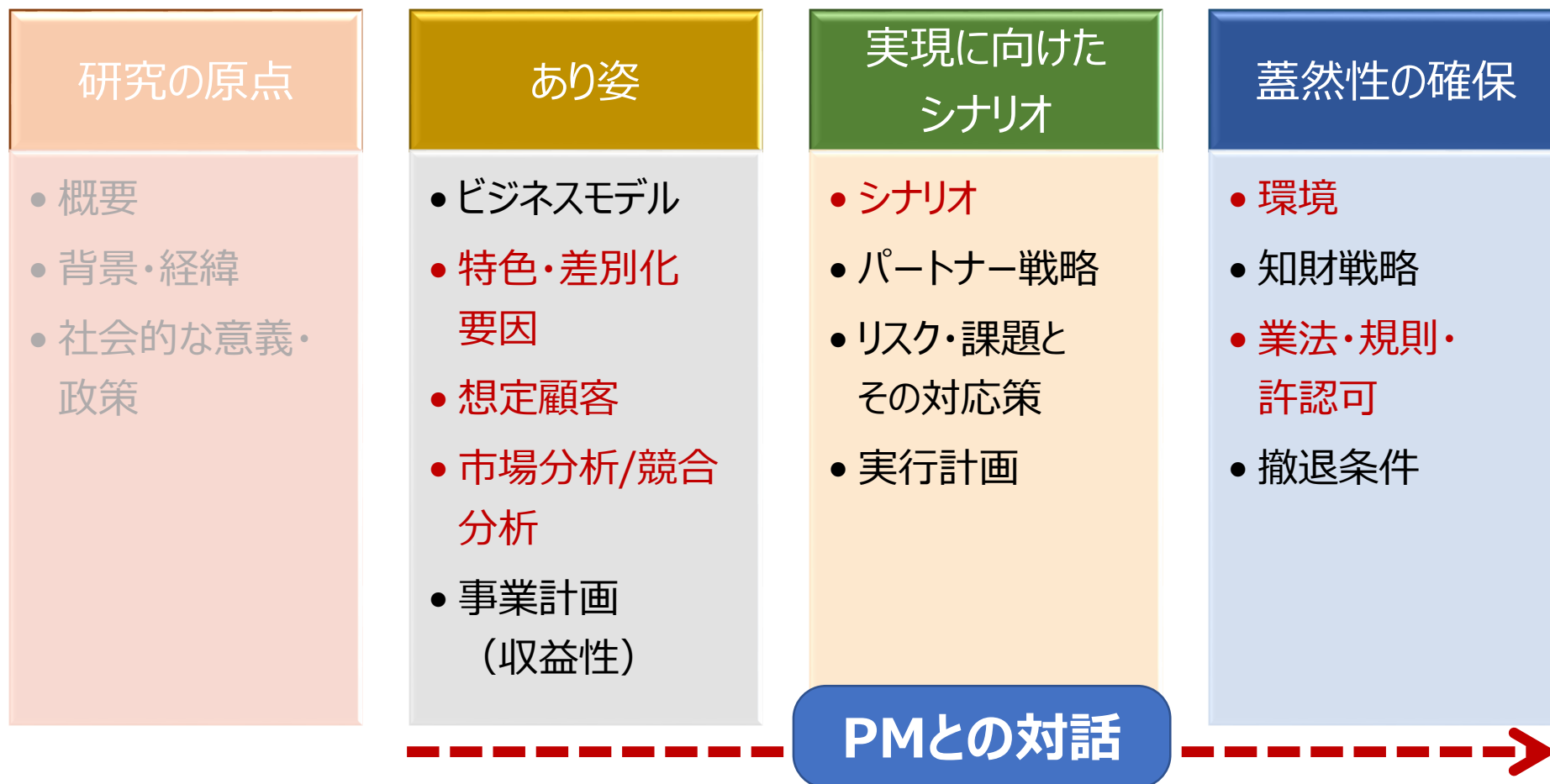
## PMとの対話

調査を踏まえ、社会実装・研究との融合に向けて  
PMと綿密に協議し、社会実装を支援



# 開発戦略ラウンドテーブルのアプローチ

研究の優位性を活かした社会実装案（事業構想）を策定するため、以下の項目を検討

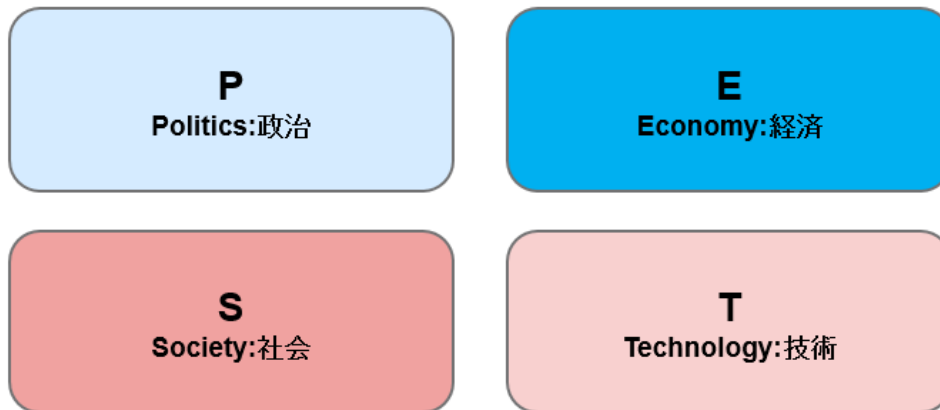


# フレームワーク活用による情報収集と整理の実施

- 事業化に向けて、研究内容や関連する業界を想定し、情報収集と整理を実施
- 外部環境分析を実施するために、各種フレームワークを活用

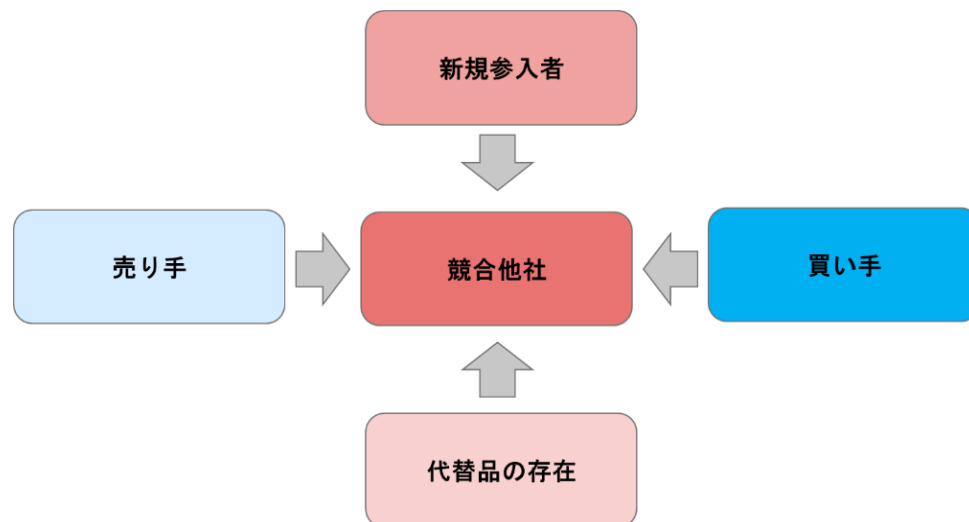
- **PEST分析（マクロ分析手法）**

Politics : 政治、Economy : 経済、  
Society : 社会、Technology : 技術、の4  
項目ごとに環境整理を行い、各プロジェクトの  
社会実装が受け入れられるかを分析する際に  
活用。



- **ファイブフォース分析（ミクロ分析手法）**

業界の収益性に影響がある5つの競争要因  
(①新規参入業者の脅威、②買い手の交渉  
力、③供給企業の交渉力、④代替品の脅  
威、⑤競争企業間の敵対関係) を基に分析  
をおこなうフレームワーク。



# フレームワーク活用によるビジネスモデル案のコアを構築

- サプライチェーンを想定し、商機の所在や、市場参入のメリット・デメリットは何かを理論的且つ体系的に分析
- 実施済みの外部環境分析に、研究内容の強みと弱みにあたる内部環境を加えて整理

- 調査対象事業の強み・弱み分析 (SWOT分析)

強み (S)、弱み (W)、機会 (O)、脅威 (T) に整理し、今後、プロジェクトが向かうべき方向性を提示する。この過程では収集した情報を整理・分析することで評価する。

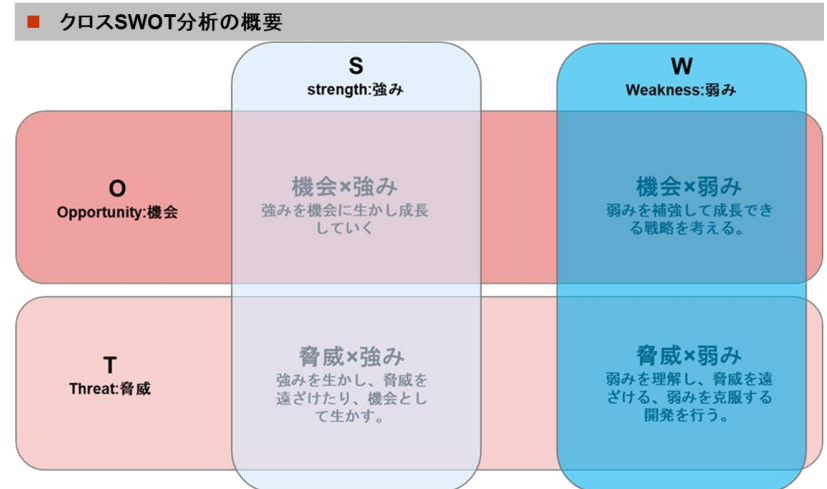
■ SWOT分析例

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>市場性</li> <li>ゲノム編集分野の先進的な研究者</li> <li>細胞培養技術・研究者</li> <li>高い育種技術</li> <li>豊富な海洋資源・水資源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発資金不足</li> <li>エンジェル投資家不在 (スタートアップへの資金供給)</li> <li>高齢化・人口減少</li> </ul>
等	等
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> <li>新興国の経済発展によるタンパク質危機</li> <li>温室効果ガス排出削減に関する国際的な合意</li> <li>動物福祉に関する意識の浸透</li> <li>ビーガン人口の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外スタートアップの潤沢な資金・人材</li> <li>新興国の購買力上昇による買い負け</li> </ul>
等	等

※現段階での一例です。

- 取りうる戦略の整理 (クロスSWOT分析)

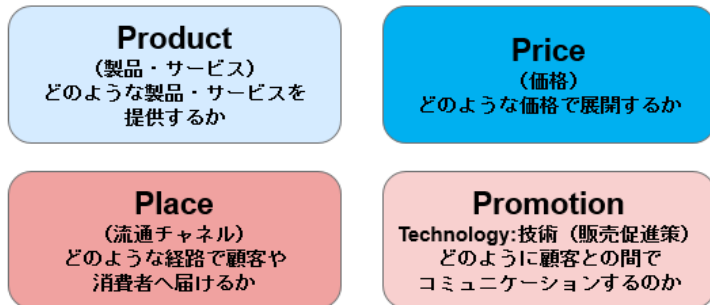
クロスSWOT分析により、対象プロジェクトで不足している部分、補強すべき点を洗い出し、事業戦略を構築する。MSの目的であるわが国発の破壊的イノベーションを実現するという観点から、強みを生かして成長していくビジネスモデルを重視する。



# ビジネスモデル案を基にした収益計画等の作成

- 想定市場規模（注力地域ごと）分析を基に、実現可能なシェアを算出
- コスト構造に関しては、ビジネスモデル案を基に必要な人員、設備、材料等を基に推計する方法、または、類似するビジネスモデルとの比較によって作成
- 推計した収益モデルを基に、貸借対照表、キャッシュフロー計算書を作成し、必要な投資額の概要を整理

## 売り手の視点



## 顧客の視点



## 収益計画作成において想定される検討プロセス

- ① 事業の方向性の検討  
(単独起業か、パートナー企業を探して取り組むか、等)
- ② ビジネスモデル素案の検討  
(どのように生産するか、設備投資、技術要素等)
- ③ 顧客の想定とマーケティング分析  
(誰にどのように何を売っていくか)
- ④ リスク評価を行い、事業構想を事業計画にまで精緻化していく。

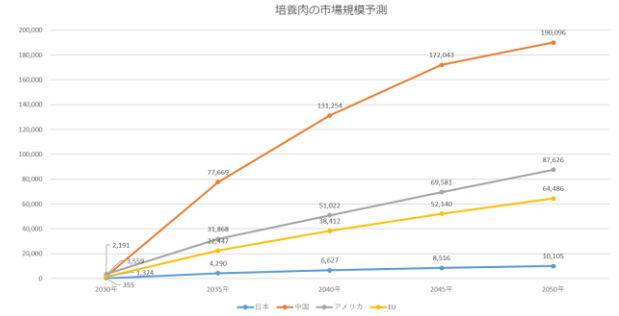
# プロジェクト向け調査報告 - 国際ベンチマーク比較

## 主な取り組み

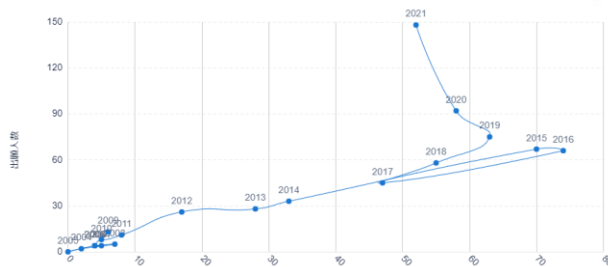
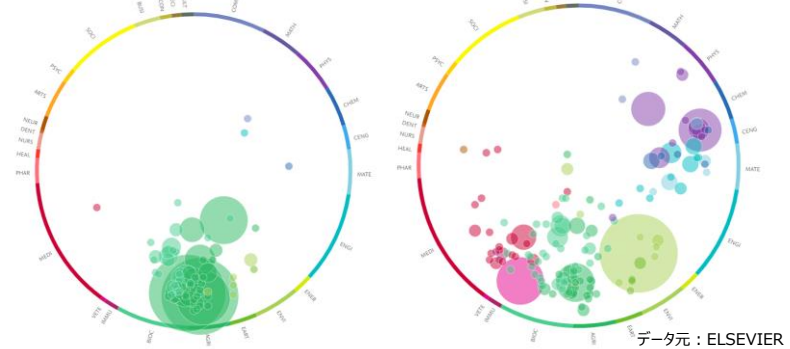
- 海外動向や市場規模の予測
- 国際レベルでの論文や知財の調査

→ 結果を踏まえ、PMと社会実装を戦略化

### 海外の先行スタートアップ事例

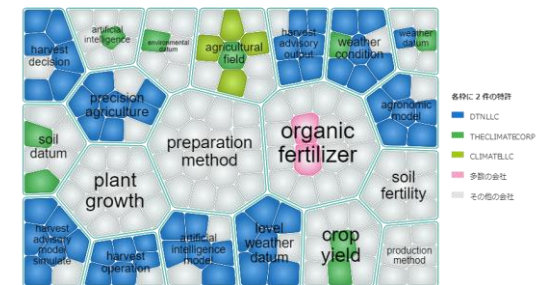


### 市場規模予測 (上)・論文分析 (下)



### 技術ライフサイクル分析・技術分野マップ

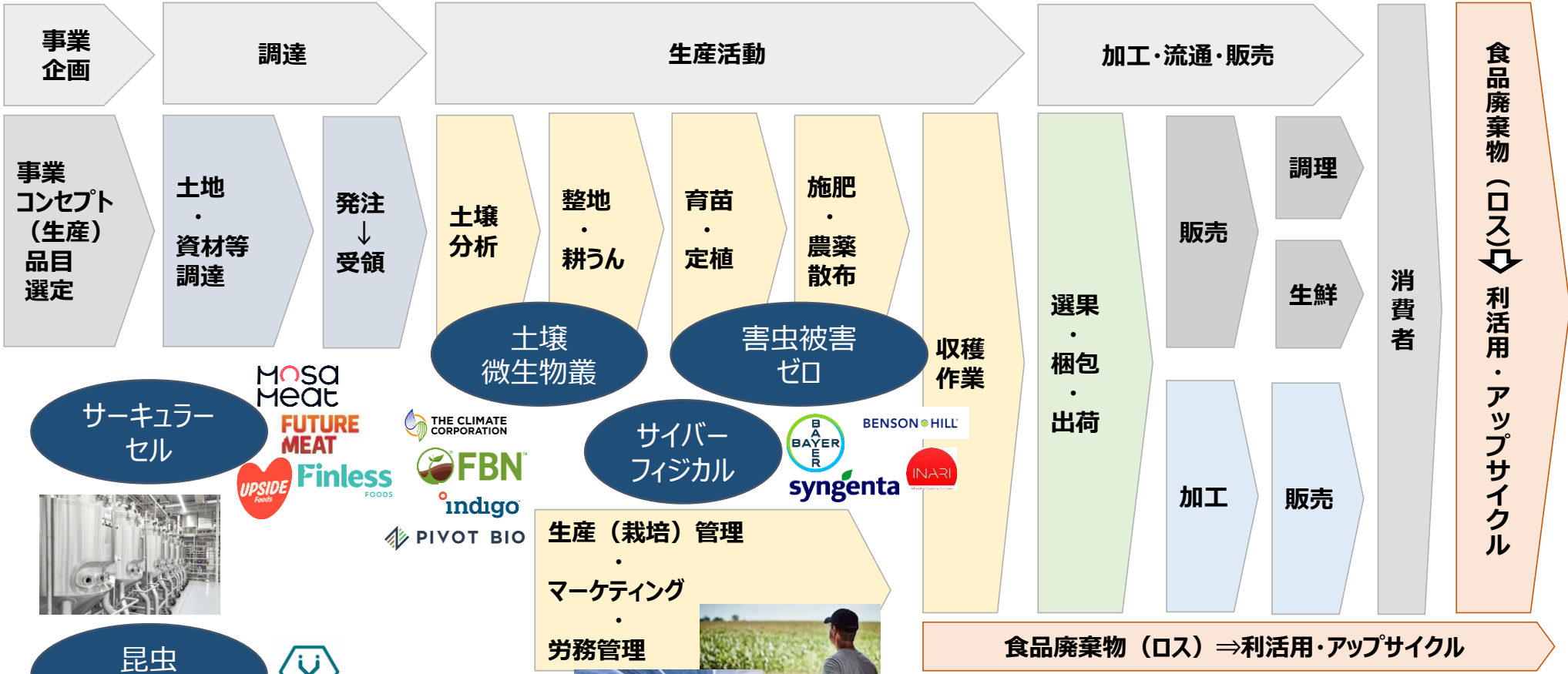
データ元: PATSNAP





# プロジェクト向け調査報告 - バリューチェーンとの関与分析

牛メタン  
削減



サーキュラー  
セル



サイバー  
フィジカル



昆虫  
システム



生産 (栽培) 管理  
・  
マーケティング  
・  
労務管理



AI-Nutrition

- SWOT分析によって整理した要因を基に、クロスSWOT分析を実施して、ビジネスモデルの土台を構築した。

**秘匿情報につき、研究会メンバーのみ共有**

- が可能である。

		強み (Strength)	弱み (Weakness)
機会 (Opportunity)	<ul style="list-style-type: none"> <li>少</li> <li>透</li> <li>精</li> <li>大</li> <li>培</li> </ul>	<p><b>秘匿情報につき、研究会メンバーのみ公開</b></p>	
脅威 (Threat)	<ul style="list-style-type: none"> <li>培</li> <li>無</li> <li>ア</li> <li>移</li> </ul>		

## 外部発信

社会実装していく上で必要なプロジェクト認知度の向上、  
大企業（経営層）との接点の拡大

ビジネスモデルを踏まえた企業の役割の明確化

起業を志向するビジネスパーソンとの接点拡大

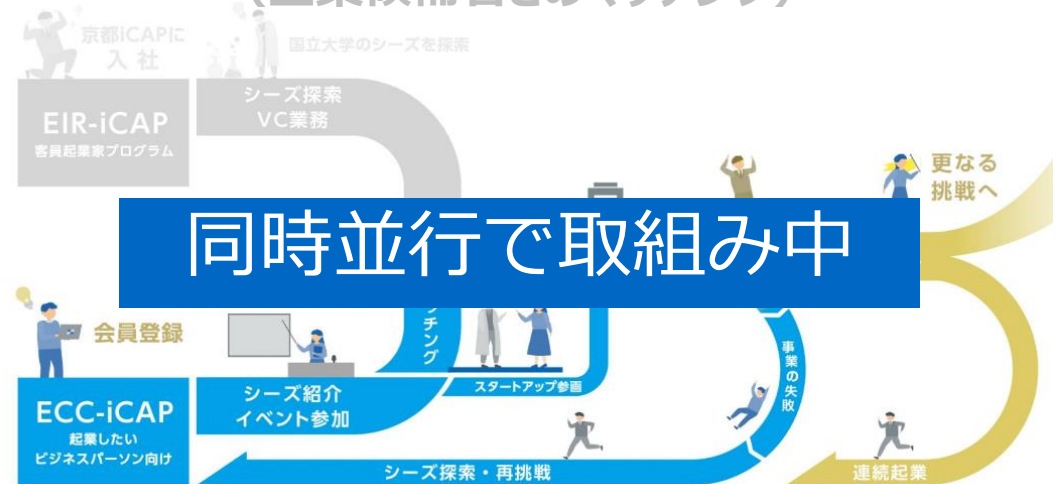
本フォーラム

産学連携フォーラム  
(大企業とのマッチング)



社会テーマとプロジェクトの関わり  
(事業構想) を順次発信

京都iCAPとの連携  
(企業候補者とのマッチング)



京都大学を起点として拡大

ムーンショット目標5  
各研究プロジェクト

開発戦略  
ラウンドテーブル

- PMとの綿密な協議
- 国内外の類似研究との違い・優位性の把握

調査報告

社会実装検討

- 課題克服に向けた取り組み
- 優位性を活かした社会実装の在り方を検討

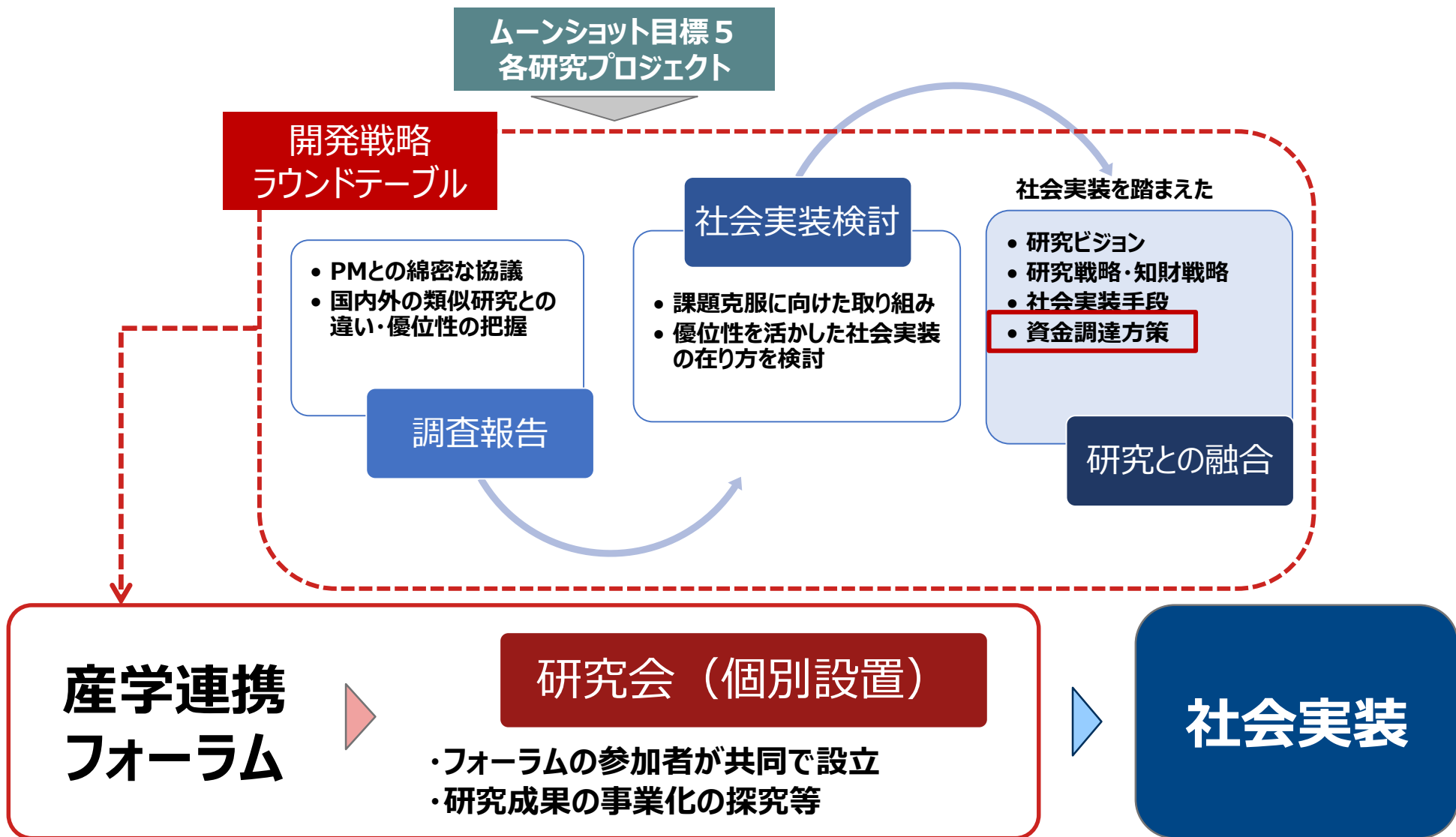
社会実装を踏まえた

- 研究ビジョン
- 研究戦略・知財戦略
- 社会実装手段
- 資金調達方策

研究との融合

研究成果を海外の動向や市場規模など  
社会実装を踏まえた調査・検討を実施

# 各企業と研究成果の融合並びに資金調達に向けた挑戦



✓ 各プロジェクトへのアプローチの際は、野村アグリプランニング&アドバイザー（株）へご連絡ください

# NOMURA

野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社